

「小学校外国語活動」の

本質を知る



取材・文 | 甲斐ゆかり
Text: Yukari Kai
イラスト | 田中麻里子
Illustration: Mariko Tanaka

なぜ、小学校で外国語活動を始めるのか

まず確認しておきたいのは、小学校での外国語活動は、言語スキルの習得を目的とするものではないということ。これは非常に重要なポイントです。

もちろん、言語活動において、きちんと発音することができたり、正しいセンテンスを使えたりすることは大切です。しかし、小学校の外国語活動では、それら言語的な「スキル」の出来、不出来より、英語による「コミュニケーション」の特徴を体験し、楽しむことの方を重視しています。

英語圏のコミュニケーションの特長は、日本人のように「以心伝心」や「曖昧さ」を良しとせず、常に自分の考えや思いを明らかにしながら、相手とのコミュニケーションを円滑にするという点にあります。背景には、個人を尊重し、個の確立を重んじる文化が存在しています。

また、英語圏を中心とする欧米諸国には、ボディランゲージのような豊かな感情表現の方法も存在します。ALTとの継続的なコミュニケーションが、特別支



PROFILE
渡邊 寛治 Kanji Watanabe
1946年生まれ。文京学院大学外国語学部教授。国立教育政策研究所名誉所員。平成4年度より、国の小学校英語教育における推進者のひとりとして「小学校英語活動実践の手引」の作成をはじめ、様々な施策に携わる。「子どもが変わる！ 小学校英語活動」（新学社）の監修者でもある。

援学級の子どもたちに良い影響を与えたという例も報告されています。

日本人はこれまで、欧米人のように自己を積極的に発揮していく力が、それほど豊かではありませんでした。

しかし、これから先の国際社会では、共通言語である英語のルールにのっとり一層求められてくるでしょう。小学校での外国語活動は、英語でのコミュニケーションに慣れ親しむことで、自己決定能力や他者を思いやる気持ちを育み、積極的に状況に参加する術や能力、つまり「生きる力」を身につけることを目指しているのです。

カードdeえいご（新学社）

●A・Bの2セット、各108枚。
A・Bあわせて児童に身近な21ジャンル、238の単語を収録。アクティビティプラン付き。同じデザインで大判の教師用もあり。



小学校 学習指導要領 【外国語活動】

目標

●外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

内容〔第5学年及び第6学年〕

1 | 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。

- ① 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ② 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- ③ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを覚えること。

2 | 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

- ① 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- ② 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なもの見方や考え方があることに気付くこと。
- ③ 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

この4月から、小学校高学年での「外国語活動」実施に向けた移行期間がスタートしました。

2年後の完全実施を前に、編集部にも、疑問や不安の声が多く寄せられています。

そこで今回は、小学校外国語活動推進のキーパーソンのひとり、文京学院大学外国語学部教授の渡邊寛治先生に、外国語活動導入の意義や目的を率直に語っていただきました。

完全実施までにやるべきことは何か

先生方に心掛けていただきたいことは2つあります。

ひとつは、みずから受けてきた英語教育の「枠」を取り外して考えてみる事です。

多くの先生方は、自分の受験時代の体験から「英語とはこういう勉強をするものだ」というイメージをお持ちだと思います。また、「総合的な学習の時間」での実践から「この教え方が正しい」という教育観を持っていたり、「英語は不得意なのに、どうして今さら」といった、英語そのものへの抵抗感をお持ちの先生もいらっしゃるかもしれません。ですが、さきに述べたように、小学校での外国語活動は、コミュニケーション

の素地を養うことを目標としています。こゝで言う「素地 (foundation, ground work)」とは、欧米文化では当たり前のように自己決定に基づき、自分の考えや思いを発信しようとする力を指します。このことをしっかり押さえていただきたいと思っています。

もうひとつは、先生自身が、コミュニケーションを「楽しむ」ことです。

例えばALTと接していくうちに、「あつ、こんなところがあるんだ」「この国にはこんな特長があるのか」など、新しい発見をすることもあるでしょう。時には「日本はこういう習慣があつて…」と、互いの国の特徴を伝え合うこともあるかもしれません。

ALTを雇用するのは、単にネイティブだからというだけでなく、彼らが、個人を尊重し、お互いの良さを認め合う文化

的な背景を持っているからでもあります。

コミュニケーション体験を通じて文化の違いに気付くことも、小学校での外国語活動の大きなねらいのひとつなのです。

私の経験で言えば、英語を一生懸命「学びたい人」は、なかなか自分自身を変えられないものです。それよりも、多少の間違いはあっても、子どもと一緒にコミュニケーションを楽しむこと、子どもと共に学ぶことが大切だと思います。



My name is Tara



BOOKS



子どもが変わる! 小学校英語活動 (新学級)
● 評価規準を設定。成果が見える指導案・活動アイデア集。低・中・高学年用の3冊編。

これでスッキリ!

外国語活動Q&A

小学校での外国語活動が始めるにあたって、現場での疑問や不安は尽きません。ここでは、編集部寄せられた様々な疑問の中から、多かった意見をピックアップ。渡邊先生に、それらの解決策をおたずねしてみました。

授業・指導法に関する疑問

Q▼歌やチャンツが大切だと言われるのはなぜでしょうか。また、どのような効果が期待できるのでしょうか。

A▼リズムを使って、自然に楽しめる効果があります

音声言語を扱う場合、理屈ではなく、まずは楽しみながら言語のリズムに親しんでいくことが大切です。歌やチャンツは、そのための重要な手立てのひとつと言えます。

活用できるシーンは3つあります。①始めのウォームアップ、②途中の気分転換、③良い雰囲気での授業を終えるための最後のまとめです。

たとえばどんな言語であっても、歌やチャンツなしでリズムに乗っていくのは難しいもの。リズムは人間の心を楽しくします。ぜひ上手に活用してください。

Q▼文字指導を取り入れてはいけない理由は何でしょうか。「文字を知りたい」という気持ちが出てくるのは自然なことだと思うのですが…。

A▼文字指導よりも、他に優先すべきものがあります

学習指導要領では、文字指導は中学校段階で扱うと明記されています。小学校段階での指導を禁止しているわけではないのですが、あくまで「中学でやる」ことになっている。それは、文字指導がより高度な能力を子どもに要求するからです。

また、小学校の外国語活動は、週に1回しかありません。確かに、文字を知りたがり、書きたがりする子どもはいますが、限られた時間内で一斉に文字指導まで行う

意味があるかどうかには疑問が残ります。それよりも大切なのは、「自分で決定し、発信する力」を養うこと、そのための行動力や主体性を育むことです。学習指導要領の「目標」を見ていただければ、おわかりいただけると思います。



Q▼英語のスキルに自信がないのですが、どのような勉強をすれば良いでしょうか。

A▼語学スキルよりも、担任の役割を果たすことを意識して

担任は「英語の専門教師」ではありませんから、自分の語学スキルについて、細かく意識する必要はないでしょう。

ただし、担任には「教育者」として授業全体の仕切り、プロデュースをしていく重要な役割が課されています。カリキュラムの開発からALTとの打ち合わせ、授業の環境づくりまで、*PDCAサイクルを意識した企画・

運営をしてほしいですね。ALTに任せきりにせず、一緒にコミュニケーションを楽しむことが大切だと思います。

Q▼高学年では、何かを発表することを恥ずかしがる子どもが多くなります。そのような子どもたちの知的好奇心をくすぐるための工夫には、どのようなものがあるでしょうか。

A▼子どもの考えや思いが発信できる場面設定を

発表の場面で高学年の子どもが「恥ずかしがっている」ように見えるのは、与えられたものに対する自分なりの批評や理屈、つまり「自立心」が芽生えてくるからでしょう。解決策としては、それを利用したカリキュラムを作っておくことが挙げられます。

例えば、「買い物」は、学年共通で人気のあるカリキュラムです。買い物という行為の中には、自分の考えや思いが発揮できる場面が多く含まれています。

子どもの発達に応じて、言いたいこと・したいことは何かを考え、それらが発信できる場面を設定することを心掛けてほしいと思います。

教材・教具に関する疑問

Q▼「英語ノート」はどのように使えば良いでしょうか。

A▼学校のカリキュラムに合わせて、柔軟な活用を

「英語ノート」は教科書ではなく、共通教材として用意されたものですから、全ての授業をこれに沿って行う必要はありません。それよりも、学校の既存カリキュラムを学習指導要領や解説書でチェックし、その上で必要に応じて活用することが大切です。

Voice from ALT

秋山 Katherine
まゆみ 先生

PROFILE

鳥取県教育委員会事務局ALT支援職員。日本生まれ、日本育ちの米国人。JETプログラムで派遣される鳥取県のALT(約50人)の相談役が主な仕事。ALTの研修やオリエンテーションを行うほか、月2回ほど小学校で外国語活動にも参加している。



「良い授業をしよう」という気持ちは
共通しているのだから大丈夫。
「英語力」より「心のつながり」です!!



ALTに関する疑問

Q▼カリキュラムやその目標などの「教育観」について、ALTとの共通理解は、どのようにすれば良いですか。

A▼時間確保に最大限の工夫と努力を

ALTとの共通理解を深めるには、事前に十分な打ち合わせの時間を設定するほか、英語版のカリキュラムを作成するのにもひとつの方法です。十分な打ち合わせの時間が持てるよう、学校の管理職がきちんと仕切り、オーガナイズしながら、教務主任と担任が協力していくことが大切だと言えます。

事前に十分な時間が取れない場合は、授業後に振り返りの時間を持ちたいですね。1回目の授業を次に生かしていくことが大事です。

Q▼ALTがおらず、担任がひとりで授業を進める場合、心掛けておくべきことは何でしょうか。

A▼ALTに自分の思いを伝えるための「仕立て」の授業を行おう

日本の子どもたちは素直でとてもかわいいですね。英語に興味がある子どもが多く、私と話したい、英語をわかりたいという気持ちをすごく持っていて、中には恥ずかしがる子どももいますが、担任の先生にフォローしてもらいながら私と話をすると、とても嬉しい顔をしてくれます。そういった意味ではとてもやりがいを感じています。

担任の先生とは、事前にファックスを使ってカリキュラムの確認をしています。そうすると、あらかじめどんな授業をしたらいいのかがわかるので安心です。カリキュラムは全て担任の先生が決めるのではなくて、できればALTの意見やアイデアも取り入れてほしいですね。「ALTと一緒に楽しい活動を作っていく」という気持ちでいてほしいなと思います。

英語が苦手な先生もいらっしゃるかもしれませんが、先生の前向きな気持ちは子どもたちに伝わります。ぜひ、担任の先生には笑顔で授業をもり立ててもらいたいです。

例えば週1回、月4回の授業のうち、月1回しかALTが来られないとします。その場合、残り3回の授業は、ALTに自分の思いを伝えられるようにするための「仕立て」だととらえましょう。

授業では、全てを英語で話す必要はありません。子ども同士の活動の中では一部日本語を用いても良いでしょう。ただし、音声教材などを用い、「本物」に触れさせる工夫は必ずしてください。小学校での外国語活動は言語の習得が目的ではありませんが、これは大切な要件です。

評価についての疑問

Q▼外国語活動の評価の観点について教えてください。

A▼評価の観点が偏らないように注意

小学校での外国語活動の大前提として繰り返し強調しておきたいのは、言語を「習得する」ことが目的ではないということです。

したがって、「〜という表現ができる」とか「〜の意味がわかる」といった観点ではなく、「自分の考えや思いを相手に伝えようとしているか」や「積極的にコミュニケーションを図ろうとしているか」を見てください。つまり、人がコミュニケーションを図る上でいちばんの基礎となるもの、すなわち「素地」を評価していくのです。評価規準の設定にあたっては、そのことに留意してください。

Q▼小学校での外国語活動が始まることで、中学英語はどのように変わるのでしょうか。

A▼コミュニケーション重視の授業をやらざるを得なくなります

これまで「高校入試が読み書き中心だから」という理由で、中学校の6〜7割ほどが、「読

み・書き」中心の授業を行ってきました。

しかし、現行の中学校学習指導要領における外国語の教科目標は「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」となっています。つまり本当は、中学校も、小学校と同様に、「聞く・話す」学習が中心なのです。

今後は、高校入試の内容も変わってきていきます。それに合わせ、中学校も、コミュニケーション重視の授業をやらざるを得ない方向に変わっていくでしょう。



ところで、小学校での外国語活動のスタートに対し、中学校の先生の中には「小学校段階で、英語を少し読めるようにしてもらえば助かる」といったことを言う方もいます。しかし、これは大きな間違いです。さきに述べたように、英語の「読み・書き」を指導するのは中学校となっている。このことを十分に認識していただきたいと思います。

先生方の実践に学ぼう

外国語活動の意義を理解し、疑問点を解消したら、あとは自ら実践するのみ！
意欲的な授業を行っている先生方の事例を参考にしてみましょう。

▶ CASE STUDY 1

外国語活動にも、他教科と同様、決まった学習展開がありません。その中身を工夫することで、担任ひとりでもとても楽しい活

動に早変わりさせることができます。学習展開に沿って、それらのポイントを紹介しましょう。

外国語活動の学習展開

- ❶ 導入
- ❷ 活動で使う表現にふれる
- ❸ 表現に慣れる
- ❹ コミュニケーション活動
- ❺ まとめ

❶ 導入には歌がおすすめ！

歌詞の通りに正確に歌わせようとするのではなく、聞こえた通りに歌わせていくのがポイント。これが、英語を「音声」としてとらえていくことにつながります。同じ表現が繰り返し出てくるものや、身体表現が可能な歌を選べばベストです。

❷ できないことは、無理してやらない

担任の役割は、流ちょうな英語を操ることではなく、「知恵を使って子どもにあった活動を工夫すること」。視聴覚教材を活用するのも、ひとつの方法です。「何のために使うのか」を明確にすることを心掛け、市販のビデオ・コンピュータ・DVD教材、自作のCDなどを活用してみましょう。視聴覚教材は子どもの興味・関心が高いため、使い次第でその効果が十分に期待できます。

❸ 表現に慣れさせるならゲームが一番！

子どもが自分の思いを伝え合うためには、表現に慣れることが大切です。ゲーム活動は、表現が繰り返し使われるので、楽しみながら知らず知らずのうちに発話に慣れることができます。

評価のポイントとしては、ゲームに「勝った・負けた」だけで終わるのではなく、教師のねらいにあっ

た行動をとっていたかを見取ってあげること。そして、必ず全体の前で、子どもを称賛することです。

❹ 「コミュニケーション」は「シチュエーション」が大事

コミュニケーション活動は、実際に自分の頭と心で「思ったり」・「感じたり」・「考えたり」したことを、仲間と伝え合う活動です。この場面で、教師のねらう子どもの姿が見られるためには、『子どもの興味・関心に基づく活動内容』、『活動によりリアル感が感じられる場面状況』にすることが大切です。担任は、コミュニケーション場面と言葉の働きに気をつけた場面設定をする必要があります。



コミュニケーション活動の例

- ・お食事に行こう
- ・お気に入りランチをつくろう
- ・友達にインタビューしよう など

→「フードコートのシェフになろう」というコミュニケーション活動の様子です。「メイン」「サイド」「デザート」「ドリンク」の4つのコーナー（お店を設置し、それぞれのコーナーに来るお客の子どもとのコミュニケーションをとっていきます。店員役は、紙製の帽子をかぶります。

担任が育みたい子どもの姿が「意欲や積極性」なのか、「自分の意志を伝える表現力」なのか、「相手を理解し、思いやる態度」なのか、自校の外国語活動のねらいをもう一度振り返り、それが達成できるような活動を考えてあげてください。

❺ 仲間のよかったところをさがそう！

担任が子どもの変容に驚き、その子の違った面に出会える外国語活動ですが、それは子ども同士でも同じことを感じています。授業のまとめには、自己評価だけでなく、ぜひ相互評価を取り入れてください。

私たち担任は日々の実践から、教科指導に対するhow toを自然と身につけています。そのテクニックを外国語活動でも使いましょう。そして「担任だからできる」楽しい活動を作り上げていきましょう。



←「Number Call」というゲームをしている場面。このゲームは言葉に慣れ親しむ時や、ウオーミングアップの時に使います。通常は数字をカードコーリーに使うのですが、「色」や「食べもの」など、別のものでも応用が可能なので、担任としては工夫できるゲームのひとつです。

「担任ひとりでも、思ひきり楽しもう！」

埼玉県さいたま市立大谷口小学校

荒木大輔

担任とALTは、それぞれどのように役割分担をすれば良いでしょうか？ 今回は、『子どもが変わる！小学校英語活動〔中学年〕（新学社）の中に紹介されている「世界のファストフード」を例に、その具体例を紹介していきます。

会話の例

- A : Are you ready to order? B : I'd like a hamburger, please.
 A : Anything else? B : No. That's all.
 A : For here or to go? B : For here, please. / To go, please.
 A : That'll be two dollars. B : Here you are.
 A : Thank you. B : Thank you. Bye.

「世界のファストフード」展開例（一部）

時間配分	活動項目	担任の活動例	ALTの活動例
活動① 10分	●買い物活動をする。 ①基本会話：ペアを作り何をかうか相談し、2人で一緒に、会話例の通り発話して買い物をする。	<ul style="list-style-type: none"> • 店員になる。⇒並んでいる間は他のペアの会話を良く聞か、ワークシートを書く指示をする。 • ここで食べる場合は紙皿、持ち帰る場合は紙袋を渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 店員になる。 • ゆっくり正しく発音し、児童に聞かせる。 • 代金がいくらかを言い、お金を受け取る。
活動② 20分	②自由会話：各自、何を何個買うか決めて自由に買い物会話をする。その際、店を回るのは個人ではなく、ペアで行動する。	<ul style="list-style-type: none"> • 残り時間に応じ、活動①と②のそれぞれ終了時点でいくつかのペアに模範会話をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 動作を交え、気持ちをこめて会話する。 • 良くできたペアをピックアップしておく。 • 大きな声ではっきり会話できた児童をその都度ほめる。
評価 5分	●自己評価、相互評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> • 良いペアワークや主体性のある活動をしていた児童をほめる。 • 活動の成果を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 模範のペアをほめる。 • 活動の感想を話す。

1 コミュニケーションの育成を目指した授業づくり

「外国語活動」＝「ゲーム」では、高学年の子どもたちは飽きてしまいます。私は、「もし明日海外に行ってもすぐに使える」英語を使って活動するように意識しています。

例えば買い物活動では、本当に英語で買い物をするような気持ちになるように活動を仕組むことがポイントです。今回の活動では、店員に扮したALTや担任（ゲストティーチャーを招くのも良い）に対して、最終段階で児童が堂々と買いたい物や持ち帰るかどうかなどを話し、買い物ができることを目指しました。

2 担任とALTの役割を明確にしたTT

外国語活動では、担任とALTがTTの機能を活かして活動を進めることが大切です。担任は、活動の雰囲気盛り上げコントロールする「授業の責任者」であり、ALTは、教室に異文化を運んでくれる

存在、授業の協力者です。担任は、良いペアワークや主体性のある活動をしていた児童をほめ、ALTは、大きな声ではっきり会話できた児童をその都度ほめるようにすると良いでしょう。

3 学習評価・授業評価を次の指導に生かして「授業改善」

活動中は絶えず「指導と評価の一体化」を図ります。練習段階を経て活動段階に入ったら、担任は発言に指導と評価を行うと良いでしょう。私は自己評価カードを工夫し、教師も児童も同じ視点で授業を振り返るようにしています。



◀ 買い物の模擬体験場面。各自何を何個買うかを決めて、自由に会話をします。ALTは店員のコスチュームを着ています。

「ALTと協力して
コミュニケーション力を高めよう！」

千葉県成田市立公津小学校

渡邊浩章